

学校教育目標	『つながる 続ける 創り出す』 教え合いや学び合いを通して自ら課題を見つけ、ねばり強く取り組むとともに、興味や関心を広げて学び続ける力を育てます。(知) 他者の思いに寄り添う心情を大切に、他者とのコミュニケーション力、人間関係を調整する力を育てます。(徳) 自他の生命や体を大切にし、基本的な生活習慣を守り、安全面に気を配り、心身ともにたくましく生きる力を育てます。(体) 地域ボランティアとのかかわりをきっかけに、地域社会の一員として行動する力を育てます。(公) 多様性を尊重し、様々な人々とのコミュニケーションを通して社会への視野を広げ、共に社会で生きていく力を育てます。(開)			
	創立 66 周年	学校長 遠山 松雄	副校長 矢島 祥子	2 学期制 一般学級: 19 個別支援学級: 5
学校概要	児童生徒数: 625 人 主な関係校: 原中学校、原小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	原中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<p>&lt;主体性・積極性&gt; &lt;試行錯誤する能力&gt; &lt;自己を理解し認める姿勢&gt;</p>	<p>原中学校 原小学校 三ツ境小学校</p>	<p>人や社会とのかかわりを大切にできる人、 自分も他者も大切にできる人 自分らしさを見つけ、発揮できる人</p> <p>・年2回の合同授業研究会を通して、ブロックイメージシートに記した資質・能力と各教科とのつながりを検証し、授業力向上を目指す。 ・運動部の生徒に技術指導のサポートを受けたり、中学校の合唱コンクールの優秀クラスの発表を聴いたりするなど、児童生徒間交流の充実を図る。</p>

中期取組目標	<p>○全職員が一丸となって、児童・保護者・地域の願いを受け止め、「まちと共にあゆむ」学校づくりを推進します。</p> <p>・一人ひとりの子どもが学ぶ楽しさを味わうとともに、「質の高い学び」が実現できるようにします。</p> <p>①ICTを活用した授業改善の推進 ②教え合いや学び合いの場の充実</p> <p>・小中一貫教育推進ブロックや家庭・地域と連携を強化し、地域や外部人材を活用し、信頼に応える学校づくりを進めます。</p> <p>①心結会・緑遊会との連携や三ツ境小防災の日の充実 ②小中ブロックでの交流・情報交換の充実</p> <p>・全職員が相互に啓発や連携をする活気にあふれた学校運営組織を確立し、「持続可能な学校」の実現を目指します。</p> <p>①重点研や校内研修を通しての教員のスキルアップ ②アウトソーシングの活用や業務内容の精選</p>
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①教育活動全体を通じた学習指導の充実を目指し、教科等横断的な視点から児童が資質・能力を高めていくための日々の授業改善を図る。②資質・能力の三つの柱を身に付けるための指導と評価について、研修を充実させる。③GIGAスクール構想において、児童が学習の場面で効果的にICTを活用できるよう教職員研修や環境整備に取り組む。
徳 人権教育	①「特別の教科 道徳」を充実させ、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を高めていく。②体験学習を充実させ、豊かな人間関係を築いていく。③教職員の人権意識の向上を図りながら、児童が自他の大切さを認められるように人権教育の取組を推進する。④読書活動の充実や音楽に親しむ環境づくりに努め、豊かな感性や情操を育成する。
体 健康教育	①校内研修(教育課程研やメンター研等)による、体育科の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進に取り組む。②学力・学習状況調査や体力・運動能力調査等の結果から児童の実態を捉え、スポーツフェスティバル等の行事や一校一実践に取り組み、児童の体力向上を図る。③地域や保護者と連携して、健康・安全についての取組の日常化を呼びかける。
公開 自分づくり教育	学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、児童の自立に向けて必要となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動と各教科等とを関連させながらキャリア教育の充実を図る。①「自分づくりパスポート」を活用し、自身の変容や成長を自己評価できるようにする。②異学年との交流を通して、相手のことを考えながらかわっていき経験を積み重ね、人とのつながり方や集団生活の充実の仕方を身につけられるようにする。
いじめへの対応	①年2回、いじめアンケートと面談を同時期に実施し、児童のSOSを職員から見つけられるようにする。支援が必要な場合はケース会議等を行い、丁寧に対応する。SCやSSWとの連携も行う。②高学年の一部教科分担任制を活用したり、学年研で児童指導について必ず話題にあげたりすることで、情報共有を密に行い、複数の視点から児童理解を深めていく。③未然防止の観点から、いじめ認知を積極的に行い、早期発見、早期対応に努める。複数の教員で対応することを徹底し、多くの目で児童を見守る。
人材育成・組織運営(働き方)	①重点研やメンター研等を活かし、安全研修や学級経営について研鑽を深める。②年間カリキュラムやそれに伴う年間総時数、余剰時数等を勘案し、校時表や下校時刻の改定を行う。③会議やそれに懸かる検討事項等の精選、教職員の対話や交流を促す機会の創出、ICT機器を活用したペーパーレス化など、校務の効率化やコミュニケーションの機会の創出を図る。④業務の効果的なアウトソーシングを図り教職員の専門性を生かした働き方の改善を行う。
児童生徒指導	①「学校のきまり」を、社会的価値観に沿うものであるか検討し、子どもも作成に参画していく。②一部教科分担任制等を実施し、複数の目で児童一人ひとりを見ることで、児童の多面的理解を深め、学年チームで児童指導にあたる体制を確立する。③「Y-Pアセスメント」を活用し、多角的な児童理解と具体的な支援・指導を実践する。④不登校児童の家庭と連絡を密にし、学びが継続できるようにする。
特別支援教育	①通級指導教室や特別支援学校のセンター的機能を活用し、支援体制を構築する。②特別支援教育に関する教職員の知識を深める研修を進め、多様なニーズに対応する指導や支援につなげる。③特別支援教室(チャレンジルーム、ほっとルーム)等、児童が安心して過ごすことができる場を充実させる。
地域連携	①地域学校活動推進員との連携を密に行い、心結会や緑遊会を中心に地域と協働して学習活動内に人との関わりの場面を設定することで、児童の成長を多くの眼差しで支えられる学校づくりを行う。②地域拠点防災訓練と連携し学校行事に位置づけた「三ツ境小防災の日」を実施し、児童が地域の一員であることを自覚し、地域と児童の関わりが深まるようにする。